

英語学習を通して国際協力について考える

学 校 名：兵庫県立芦屋国際中等教育学校 指導時数：8 時間
名 前：岩見 理華（英語） 対象学年：高校 2 年生
実践教科：英語 対象人数：18 人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

これまで持続発展教育（ESD）や開発教育に関心を持っていたが、開発途上国を訪れたことがなかったことから今回の研修に応募することにした。昨年度旧 JICA 兵庫の教師海外研修でサモアに派遣された先生方から直接お話を聞くことで、自分なりにサモアのイメージを持って参加した。「公用語が英語だからコミュニケーションには困らないだろう」という安易な気持ちも持っていた。いきなり始まった村でのホームステイ。お湯は出ないと聞いてはいたが、「プール」と呼ばれる真水の泉で体を洗ったり、洗濯をしたり、雨水をためて料理やトイレに使ったりと、とても不自由な生活をしているように感じられた。しかし、村の人たちはみな幸せそうで、お年寄りも障害を持っている人たちも大事にされていた。私たちは、たった 2 泊 3 日の客人であったのに、大歓迎された。心づくしのご馳走は胸がいっぱいでのどを通らないほどだった。

自給自足で多くの伝統文化が多く残っているサモアの村での生活を体験した後で訪問した JICA 関連施設や現地の学校では、開発途上国としてのサモアの抱える問題について考えさせられた。また日本がサモアに対し、さまざまな形で支援・協力をしていることもわかった。ホームステイ先の村でもそうだったが、地方では高校生にも英語が通じないことが多かった。「サモアでは英語ができるかできないかで、大きく人生を分けてしまいます。英語ができればニュージーランドやオーストラリアなど先進国で働くこともできますが、英語ができない人は一生サモアから出ることができないのです。」と、佐々木 JICA サモア支所長がおっしゃられた言葉が、英語を教えている私にとって印象に残っている。

2. カリキュラム

（1）実践の目的・背景

- 英語による参加型学習を通して、開発途上国「サモア」（地理・宗教・文化・人々の生活等）について理解を深めさせる。
- サモアの抱える開発課題や日本の支援・協力体制について、インターネットを用いて情報を収集し、自らの意見を英語で表現する際にもそれらの情報を活用できる能力を養う。
- サモアをより身近に感じ、自分たちでその開発課題を解決する方法を考え、英語で発信する能力を養う。
- サモアの学習を通して、国際支援・協力について関心を持ち、将来国際社会に貢献することに対する意欲を高めさせる。

勤務校の生徒の在籍国数は 29 か国。さまざまな言語的・文化的背景を持った生徒たちが共に学ぶ国際色豊かな中高 6 年一貫教育を行う中等教育学校である。そして、コミュニケーション能力や異なる文化を理解・尊重する態度など豊かな国際感覚を備え、国際社会に貢献できる力を育てることを教育目標としている。

本校の英語の授業は、生徒の海外での生育歴等を考慮して、習熟度別少人数クラス編成を行っている。本実践授業の対象クラスは、英語を第二言語とする国の出身である生徒や、家庭で日常的に英語

を使用していたり、入学以前に英語圏現地校、国際学校で教育を受けた経験を持つ生徒で構成される。18名のうち4名は後期課程（高校）の在学中に1年間英語圏に留学している。語彙や文法等、基礎・基本も大切にしながら、英語をコミュニケーションの手段として、物事を多面的・多元的に捉え、批判的・論理的に考える力を養うことで、将来国際社会で活躍するグローバルな人材として育成することを目指している。

（2）授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 サモアを知る①	● グーグル・アースでサモアの位置を知る。 ● 「サモアある・なしクイズ (True or False Questions)」と写真でサモアの自然・文化・宗教・人々の生活等について知る。 ● 「ものランゲージ」でサモアの文化やゴミの問題について学ぶ。	● グーグル・アース ● 写真 (パワーポイント) ● 実物 ● ワークシート
2・3 時限目 サモアを知る②	● 文科省検定教科書 Prominence (東京書籍) のサモアに関するレッスンを読み、前時で学習した内容を確認するとともに、サモアの文化に関する語彙も学ぶ。	● リーディングテキスト (Samoan Culture)
4・5 時限目 サモアの抱える開発課題と日本の支援・協力	● 写真やインターネット資料を通して、サモアの開発課題 (経済・社会政策・インフラ・環境) について理解する。 ● 上記の開発課題の中から興味のある分野についてインターネットで調べる。	● 写真 (パワーポイント) ● HP 資料 ● 発表準備ワークシート
6 時限目 サモアの開発課題を解決する方法を考える	● JICA の青年海外協力隊となり、グループでサモアの開発課題を解決する方法を考える。 ● グループで発表するためのポスターを作成し、発表の練習をする。	● 青年海外協力隊職種一覧 ● 自分たちで収集した HP 資料、写真等 ● 模造紙・マジック
7 時限目 自分たちでできる国際協力：サモアの開発課題を解決する	● グループでサモアの課題を解決する方法をポスターを用いて効果的に発表する。 ● 質疑・応答 ● パフォーマンスの自己評価・相互評価	● ポスター ● 自己評価・相互評価シート
8 時限目 国際支援・協力についての日本の役割：国際社会で貢献することを目指して	● 青年海外協力隊や現地で活躍する日本人のメッセージを聞いて、国際支援・協力について考える。 ● これまでの授業をふりかえり、国際社会に貢献することへの意欲を高める。	● 現地で撮影したインタビュー (動画) ● 授業アンケート用紙

3. 授業の詳細

1 時限目：サモアを知る①

ねらい…参加型学習を通して、サモアの文化や人々の生活について知り、関心を持たせる。

◆内容◆

- ① グーグル・アースでサモアの位置を知る。
- ② 「サモアある・なしクイズ」とスライドの写真による答え合わせでサモアについて知る。
- ③ 「ものランゲージ」（使用した実物：「アヴァの粉」、「アヴァの儀式で使うお祓いの道具（簞のような物）」、「タロイモとブレッドフルーツのチップス」、「土に分解されるゴミ袋」、「中が空洞の木でできた太鼓」）。グループで何に使う物が話し合ってから発表する。（写真1）



写真1 「ものランゲージ」
（ゴミ袋班）

◆所感◆

クイズの答え合わせに写真を使って説明をしたり、実物を手にとってグループで話し合わせて発表させたりするワークショップ形式の授業にすることで、生徒たちは楽しく授業に参加でき、サモアの文化や人々の生活に対して理解が深まったと思う。民族衣装を着たり、サモアの音楽を流したりするのも生徒たちの興味を引くことができ、効果的であった。

2・3時限目：サモアを知る②

ねらい…サモアについて書かれた教科書の本文を読むことによって、前時の学習で学んだことを確認するとともに、サモアの文化に関する語彙も学ぶ。

◆内容◆

- ① 教科書テキストの内容理解
- ② サモアの文化に関する語彙の学習



写真2 肥満大国サモア

4・5時限目：サモアの抱える開発課題と日本の支援・協力

ねらい…サモアの経済・教育・欧米化する食生活による肥満の増加・水道や電力不足などのインフラの問題・環境問題等、サモアの開発課題について知り、日本の支援・協力体制について学ぶ。

◆内容◆

- ① サモアの抱える問題について、「経済（産業がないこと）」、「教育（机や教科書、文房具が十分でないこと、暗記中心の授業で数学の力が身に付かないこと）」、「インフラ（水道、電力の不足）」、「環境（すべて埋め立てによるゴミ処理）」の分野ごとに写真を交えながら、教師が現地の訪問先で体験したことを伝える。
- ② 生徒たちが関心を持った分野の開発課題について調べる。

◆所感◆

生徒たちがいちばん興味を持ったのは、サモアの肥満率（写真2）。野菜が高くて手に入らない上に、食生活が欧米化し、肥満が原因で心臓病や糖尿病、脳の疾患など人々の健康が脅かされている。調べ学習では、サモア人の食生活、自生・輸入食品（缶詰など）やその価格、保健機関、肥満率のデータ、糖尿病についての情報をリサーチする生徒が多かった。

6 時限目：サモアの開発課題を解決する方法を考える

ねらい…サモアの開発課題を解決する方法を考えることを通して自分たちでできる国際協力について考える。

◆内容◆

- ① JICA の青年海外協力隊となり、4つのグループでサモアの開発課題を解決する方法を考える。
- ② グループで、発表するためのポスターを作成し、発表の練習をする。（写真3）



写真3 プレゼン準備

7 時限目：自分たちでできる国際協力：サモアの開発課題を解決する

ねらい…①サモアの開発課題を解決する方法を考え、自分の意見を英語で表現し、理解する。
②開発途上国に対する支援・協力に関する語彙や表現、効果的なプレゼンテーションの技術について学ぶ。

◆内容◆

- ① グループでポスターを用いて発表し、オーディエンスからの質問に答える。（写真4）
- ② 発表のパフォーマンスを自己評価・相互評価してふりかえる。



写真4 グループプレゼンテーション

👉 評価のポイント！

Theme（テーマの設定） Content（内容） Poster Design（ポスターのデザイン） Performance（発表のパフォーマンス） Group Cooperation（グループの協力）

◆所感◆

単にポスターを提示するだけでなく、テレビ番組仕立てにしてパネルディスカッション風にしたり、食生活改善チームとしてサモアに派遣される就職面接形式にしてみたりと、サモアの問題を解決するための専門家の役割を演じるために、プレゼンテーションの流れや発表方法について工夫がみられた。また質疑・応答も活発に行い、お互い真剣に評価する態度が観察された。

8 時限目：国際支援・協力についての日本の役割：国際社会で貢献することを目指して

ねらい…日本が開発途上国で果たしている役割について確認するとともに自分に何ができるかということについても考えさせる。

◆内容◆

- ①青年海外協力隊や現地で活躍する日本人のメッセージを聞いて、国際支援・協力について考える。(写真5)
- ②これまでの授業をふりかえり、国際社会に貢献することへの意欲を高める。



写真5 ディーゼル発電所

生徒の感想

- ▶ 私はこの授業が始まるまでサモアの場所さえ知りませんでした。当然、その国の文化や抱えている問題なども知りませんでした。しかし、この数か月間で私は様々なことを学ぶことができました。サモアには（焼却する）ゴミ処理場がないこと、上水道がないこと、野菜がものすごく高いこと、世界で国民の肥満率が一番高いことなど、たくさん新しいことを知りました。そして自分たちで解決方法を考え、発表することでサモアをより身近に感じることができました。
- ▶ サモアには深刻なゴミ問題があることを知りました。グループでいろいろな改善策を考える同時に「もし自分が JICA の一員だったらどうするだろう」とも考えました。こうやって真剣に問題を調べ自分たちでどうするかを考えることで、自分たちで何かを解決するということを体験できました。
- ▶ I think that we had a wonderful use of time of our English lessons. We had learned English-wise and also global-wise. I think that someday the things that we learned can be used. There was so many things that I learned about Samoa. I would love to learn about many other countries too. The lessons we took also interested me in volunteering in my own country. I realized how much we can do and inspire people for better future. (私は英語の授業ですばらしい時間を過ごせたと思います。英語だけでなく、グローバルな知識も得ることができました。いつか私たちが学んだことを活かすことができると思います。サモアについて多くのことを学ぶことができました。もっと他の国についても学びたいと思います。この授業を受けて自分の国でボランティアをすることについても興味を持ちました。よりよい将来を目指して私たちにどれだけのことができ、人々に働きかけることができるかということに気づくことができました。＜筆者訳＞)

事後アンケート結果（回答人数：18 名中）

●サモアの概要（地理、文化、宗教、人々の生活など）について理解することができた。

大変理解できた	理解できた	あまり理解できなかった	全く理解できなかった
3 名	15 名	0 名	0 名

●この授業に楽しく参加できましたか。

とても楽しかった	楽しかった	あまり楽しくなかった	全く楽しくなかった
5 名	13 名	0 名	0 名

●この授業に参加して国際協力に対する意識は高まりましたか。

大変高まった	高まった	あまり高まらなかった	全く高まらなかった
2 名	12 名	4 名	0 名

※サモアのことについて理解が深まり、楽しく授業に参加できたが、国際協力に対する意識の向上までに至らなかった生徒もいたようである。

4. 成果と課題

現地で収集した写真や実物、訪問校で実施したアンケート調査結果等を参加教員が共有し、各自の視点で教材化し授業を実践するにあたり、開発教育についての事前・事後研修は大変有益であった。学習者中心の参加型学習の手法を英語学習に応用した授業には生徒たちも興味を持って取り組み、理解も深まったようである。しかしながら、本実践授業の目標のひとつである「将来国際社会に貢献することに対する意欲を高めさせる」ことについては十分に達成できなかった。参加型学習における「ファシリテーター」としての教師の役割の重要性を再認識した。

次年度から始まる高等学校の新学習指導要領では、「言語活動の充実」が最重要事項としてあげられているが、今後も折にふれ、生徒たちが課題について自ら考え、英語で意見を発信していけるような教材開発・授業実践を目指していきたい。

参考文献 Lesson 2 Samoan Culture PROMINENCE English Reading, (2009). 東京書籍. 18-28.
『世界の国を知る 世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来 サモア独立国』
(2012). 公益財団法人 愛知県国際交流協会

参考ホームページ 「ODA メールマガジン（サモア）第 221 号」『外務省ホームページ』
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/mail/bn_221.html
「サモアの開発課題」『外務省ホームページ』
www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/hoshin/pdfs/samoa.pdf
「対サモア 事業展開計画」『外務省ホームページ』
www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/jigyuu/pdfs/samoa.pdf
「JICA ボランティア青年海外協力隊：職種別一覧」『JICA ホームページ』
<http://jocv-info.jica.go.jp/jv/index.php?m=BList>